第26回夏季大学実施報告

1992年8月3～5日の3日間，気象庁講堂で第26回の夏季大学が開催された．今回のテーマは「天気予報を支える科学」であった．講義の題目は以下の通りである．

8月3日：「大気の渦，海洋の渦（木村竜治氏）」
「天気予報と天気図―基礎編―(永沢義嗣氏)」
「コンピューターによる天気予報（隈　健一氏)」

8月4日：「風を捉える（荒川正一氏)」
「天気予報と天気図―演習編―(永沢義嗣氏)」
気象庁見学

8月5日：「数値モデルで見るメソ・スケールの大気の流れ（永田雅氏)」
「メソ天気系概念モデル（中規模な天気現象を考える)（入田央氏)」
「天気予報の歴史と新しい天気予報の目指すもの（宮沢清治氏)」

今回の参加者は87名で，気象庁の講堂がほぼ一杯になるほどの盛況であった．この場所では，これ以上の参加には無理がある．また，途中，台風9号が豊後水道から九州へ上陸するという事態があり，一時は講堂が使えなくなるのではないかと心配させられた．結果的に無事3日間を終えることができたが，今後は気象庁講堂ではなく外部の施設を使うことも検討する必要がある．

アンケートには66名の協力があった（学会員31，非学会員33，不明2)．以下にその集約の一部を紹介する．

年齢層　①10代7　②20代23　③30代13　④40代11　⑤50歳以上10（最高70歳)

職業等　①教職員21　②学生20　③気象関連業務2　⑥その他23

参加の目的　①教材研究20　②業務上の参考14　③教養または趣味34　④その他1

参加回数　①はじめて36　②2回12　③3回7　④4回以上11（最多23回)

開講を何で知ったか　①天気24　②気象17　③地学教育1　④新聞0　⑤ダイレクトメール17　⑥その他15（ロコミなど)

受講料　①高い4　②適当53　③安い7

開催時期　①7月下旬15　②8月上旬36　③8月中旬5　④8月下旬3　⑤その他2

例年，教職員の方々の参加が全体の半数近くを占めるのが普通であるが，今回は1/3弱で，④のその他が例年に比べてかなり多かった．その中には，天気予報関係のテレビのプロデューサーやパイロット，航空路管制システムの開発に従事する人など，天気予報に密着した職業の人が何人か見られた．今回のテーマがそうした関連の人を多く集めたと考えられる．

前回までの夏季大学は4日間（1日2講義）で行なわれていたものを，今回は3日間（1日3講義）で行なった．期間が短いため参加しやすいということで，概ね今回の日程が賛同を得られた（賛成33，反対14，どちらでも良い12)．しかし，1時間50分の講義を1日に3つ行なうのは，参加者にはかなりきつい日程であったようである．しかも，どの先生も熱心なあまり，休憩や質問時間も取らずに，2時間近く続けて講義をされたため，なおさらそう感じたようである．講義時間を短くしたり，途中で休憩を入れたり，また質問の時間を残していただく等の改善がぜひ必要である．

しかし，全般として講義そのものの評判は非常によかった．映像を駆使しておもしろかったとか，講師の話し方がうまいといった賛辞が数多くあった．また，手前味噌ではあるが，事務局の運営も概ね好評であった．そして，このような短期の講義だけでなく，年間を通じた気象の教養講座の開催や，年1回でなく機会あるごとに開けないかという希望，さらに，18号答申にある技能資格制度のための補助講座の開設など，気象学会の普及活動に対する期待の高さに驚かされる一面もあった．

それ以外にも多くの貴重な意見をたくさん頂戴した．全ては紹介できないが，今後の運営に生かしていくつもりである．

なお，今回のテーマに関心をもたれた方が多かったため，各地からテキスト入手の希望が多く集まり，例年の部数（500部）では足りなくなり，550部増刷した．まだ若干の残部がありますので，ご希望の方は気象学会事務局へご連絡ください．1部1,000円です．

（教育と普及委員会）